

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域の中でその人らしく暮らしていただけることを支援する、事業所独自の理念をつくりあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。理念をヘルパー室に掲示し、常に意識付けをしている。毎月地域の方々にも参加していただく布草履教室の継続開催に、全職員が協力し、入居者と地域の方々との交流を大事にしている。地域へ呼びかける行事も取り組んでいる。	○ 今年度は地域担当者を2名にし、さらなる布草履教室の継続開催、地域の方々の継続参加ができるよう取り組んでいる。そこから出た意見で、布草履の作品を通じて、幼稚園への寄贈など交流を図っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月発行している平和苑だよりに理念を掲示し、ご家族や運営推進会議の方々へ配布し、地域の中での暮らしのあり方について理解していただけるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	恒例になった花火大会にはご近所の子供さん達やご家族揃ってなど大勢の参加があり、地域に定着してきたように思う。また、畑作業されるお隣様とは気軽にご挨拶させていただき、新鮮な野菜のおすそ分けなどをいただくことがある。	○ 花火大会は継続していきたい。布草履教室への参加もチラシを配布し呼びかけている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園の運動会にご招待いただき、参加させていただいた。また布草履教室での作品の一つである編みマットを幼稚園に寄贈させていただいた。泉南市介護者家族の会の新年会にもご招待いただき、入居者のお芝居を見て楽しんでいただくなど交流している。	○ 消防署との合同避難訓練ではあいにくの雨模様で、地域の方々には声かけできなかった。また、消防署に協力していただき、地域の方々へも案内していきたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	できていない。	○	介護者家族の会の会長からは、新年会での入居者の芝居を見て「私たちが勇気と元気をもらった！」との感想をいただいている。入居者の身体状況もどんどん深刻ではあるが、地域の方々に喜んでいただけるならば、平和苑らしく、今できることを継続していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。昨年度の外部評価の結果は全職員が周知し、助言していただいたことには取り組んでいる。	○	昨年の外部評価後に、運営推進会議の規約について、市職員に報告するが、市からは何の要請もなし。7月17日の第16回運営推進会議で提案する予定である。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項について、その経過を報告し、一つひとつ積み上げていくようにしている。特に昨年末からの事故件数の多いことへの対応策の取り組みを通じて、職員の質の向上へつなげている。また泉南消防署職員の参加時には火災などの非常時についての助言は貴重であった。	○	参加者からの提案はあまりないが、事業所の取り組みをきちんとまとめて報告することが、自分たちのサービスのあり方を見つめなおすいい機会であると捉えている。第16回では事故の取り組みの中間報告もする予定。事故件数の減少は期待できるが、それ以上に職員の意識がどう変化したかを重視したい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族会などの行事には参加していただいている。事故報告は迅速に行っている。市からは事業所間の意見交換の場を提供してもらっている。様々な事業所の抱える問題を話し合い情報交換の場であり、市職員からも助言や提案があり、助かっている。7月1日には看取りの研修会を開催してくれる予定。	○	昨年当苑から提案した、事業所間の交換研修制度は全事業所が合意してくれた。今年は、他事業所の新管理者になる方が研修を申し込んでこられ、今後も交換研修などを通じて交流していきたいと考える。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会にて周知、理解している。 現在対象者はいない。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年必ず年1回の苑内研修を企画・実施し、全職員が周知徹底している。 管理者は職員の心のケアにも配慮し、職員間でいつでも助言できる環境作りをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職については時期や引継ぎで最善の努力をしている。離職の挨拶も「平和苑を卒業し、新しい人生へ出発する」という明るいものにし、入居者からも励ましの言葉をいただくことがある。新入職者は入居者にきちんと紹介し、入居者から苑のことを教えてもらうようなかわりを努めている。ご家族へは平和苑だよりで紹介している。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は希望者に支援している。必ず研修報告を全体会議で発表している。苑内研修は毎月実施し、全職員で介護技術・医療・認知症対応・リスクなど質の向上に努めている。	○	実践者研修が大変充実している為、毎年職員を受講させていきたいと、申し込んでいる。介護福祉士、介護支援専門員受験についても支援している。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉南市から、事業所間の意見交換会を年4回開催してもらい、必ず参加している。そこでの情報交換や意見は施設運営に参考にさせてもらっている。昨年当事業者から提案した職員の交換研修などは、全事業者が了承してくれ、今年は、新管理者の方が当事業所に研修に来られており、こちらも大変勉強させていただいた。	○	今後も職員の交換研修や入居者の交流は継続していきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1回は面談をし、その際に悩みや要望を聞いている。ヘルパー室で何でも話し合える環境作りに努めており、職員間のコミュニケーションも大切にしている。毎週ミニカンファレンスにて業務改善やケアについて話し合い、全職員で取り組んでいる。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年間目標や月間目標達成の為に具体的に毎週の目標を設定するなど、各自のスキルアップにつなげている。介護福祉士・介護支援専門員の資格取得について、勉強会をもつ等支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にてじっくり傾聴している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にてじっくり傾聴している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談にてじっくり傾聴し、他施設や他のサービス利用についても説明することもある。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、体験的に日中時間帯を過ごしていただいたりしている。やむを得ずすぐ利用になった場合は、ご家族の面会回数を増やしていただき安心感も持っていただくようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ずつのかかわりを大事にし、本人の思いを傾聴し、共感し、共に支えあえる関係作りに努めている。また、利用者は人生の先輩であるということをも全職員が意識し、様々なことを教えていただきながらお互いが協調し和やかな生活ができるよう場面作りや声かけをしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や誕生会にご家族様にも参加していただき、共に喜びの場を共有していただいている。また半年ごとのサービス担当者会議にご家族にもできるだけ参加していただき、ご本人をどう支援していくかを共に考え、励ましあう関係作りを築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面談時に詳しく経緯を傾聴し、全職員が情報を共有しており（個人の何でも情報に記載している）、入居後にもより良い関係が築いていけるように支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば馴染みの美容院や店にでかけている。また墓参りを継続している方もいる。電話も自由にかけていただき、電話機の扱いがわからなければ支援している。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全職員が利用者同士の関係を把握しており、その上で利用者同士の声の掛け合いの場面作りをし、利用者と共に家事やレクリエーション等を実施し、仲間意識もできている。また、ユニット間交流も進め、自由に行き来していただいている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了が入院の場合は、お見舞いをしお付き合いをしてきた。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	隔月に実施している個別外出や、日々の生活の中で、買い物や受診希望など個別に希望は伺っている。本人の意思が確認できない場合は、家族からの助言を踏まえ本人の状態に合った生活や外出を支援している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に管理者と介護支援専門員とでかなり詳しく状況把握に努めている。情報は全職員が共有している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員が意識して様々なかかわりを持ち個別記録に記入し、少しの変化も見逃さず、全職員に伝達できるよう、伝達ノートに記載している。新たな個性や持てる力を引き出すことができれば、「何でも情報」にまとめている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人や家族には日ごろのかかわりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。職員全員でカンファレンスやサービス担当者会議で意見交換をし、介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況を把握する為にケアチェック表を作成し、効果を評価すると共に、職員が記録する利用者の状態の変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。連携医療機関の看護師にも意見を聴いている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の様子やケアの実践・結果等を記録し、受診記録には、病状や薬について必要な情報を記載し、全職員が必ず読むことを徹底し、情報を共有している。心身の状態に合わせて、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて通院やリハビリの送迎等必要な支援はしている。医療連携体制を活かして、入院の回避に努力し、医療処置(点滴など)を受けながらの生活を支援している。また、入院になった場合は早期退院を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	固定したお話相手ボランティアさんがきてくれ、入居者にも楽しみになっている。消防署との年1回の合同避難訓練を実施している。地域の幼稚園から運動会や夕涼み会のご案内をいただき、参加させていただいている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性があれば、他のサービスの活用を支援していく。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性があれば、地域包括支援センターと協働していきたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去がすべて入院であるため、必要な情報提供は行っている。新入居の場合はしばらくは場所の混乱が予想されるため、不安がないよう特にかかわりを強化している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけやかかわりにおいて、人格を尊重した対応や記録ができるよう、職員の意識向上を図っている。全職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図っている。	○	言葉かけについては、日々の暮らしの中で、つつい慣れなれしくなりがちなので、常に意識するように努めている。また定期的に目標を設定し、「思いやりある丁寧な言葉かけ」を全職員で取り組んでいきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できるだけ希望を表せるようにかかわり、言葉を引き出す努力をし、自己決定ができるように支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れは持っているが、一人ひとりの体調や思いに配慮しながら、柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみやおしゃれの支援をしている。美容院へは本人の望む店に同行している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前夜に翌日の献立を利用者に記入していただき食事への楽しみを持てるよう話題づくりに努め、買い物・調理・盛り付け・片付けに至るまですべてを利用者と共に各自の能力を引き出しつつ行っている。利用者の希望を献立や食材にも取り入れている。食事中は楽しい会話を心がけている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつはご希望を伺っているが、お酒は医師から止められている。タバコは規則上禁止している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、失敗のないよう早めにトイレへの声かけをし、各自の排泄サインを見逃さないよう支援している。	○	残念ながら、入居6年目にもなると、皆さんADLの低下あり、オムツの使用数も増加しているのが現状である。尿意・便意の有無にかかわらず、トイレに行く・便座に座る習慣は継続支援していきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほとんどの方が、夜寝る前に入りたいとの希望であるため、隔日で夜間入浴していただいている。入浴中は歌や話で和やかに湯を楽しんでいただいている。	○	ADLの低下や、身体状況で浴槽に浸かれず、シャワー浴の方が数名あり。また認知症の進行により入浴拒否・入浴時の混乱によりヒステリックになる方もあり、できるだけ穏やかな状況で入浴していただけるよう、歌やスキンシップ等かわりを強化し、入浴支援している。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、ゆっくり起床されたり、午前・午後とも臥床され、休息の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で利用者の能力を引き出し、発揮できるよう仕事や作業を依頼し、感謝やねぎらいの言葉を伝えている。本人の生活歴や得意なこと好み等は本人や家族から伺い、「なんでも情報」として記録に残し、楽しみごと等の支援は介護計画に記載し実行している。半年毎に全職員で見直している。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別外出時には利用者の希望や能力に合わせて、お金の所持や使用について支援している。ただし所持金については、すべてヘルパー室にて管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「動きたくない」と座りきり、居室にこもりがちの方が多いため、畑作業・買い物・散歩・苑庭でのおやつなど企画し、季節を肌で感じていただき、心身の活性につながるよう支援している。	○	ADLの低下に伴い、活動も限られてきている。個別対応を強化し、ゆっくりと散歩していただくなどの機会を増やす努力は継続していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	隔月に担当職員が個別外出に同行している。事前に利用者と話し合い企画し、意思表示ができない方には、今できるかわりは何がふさわしいかを おもむき企画し、外食・買い物・ドライブ・散歩・歌舞伎など楽しんでいただいている。ご家族との外出・外食は希望があれば支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をかけた、手紙を書く等個々の能力に応じて支援している。年賀状などは、個別写真つき年賀状を職員が作成し、利用者一言添えていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	「ようこそお越しくございました」という歓迎の気持ちで、職員も対応に配慮し、気持ちよく過ごしていただけるよう、また、状況報告等楽しい会話に心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年苑内研修にて全職員で勉強し、周知徹底し、身体拘束をしないケアについて検討し、取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	見守りができる時間帯は、両ユニットの玄関を開放し、ユニット間を自由に利用者が行き来できるようにしている。ADLの低下に伴い、帰宅願望や徘徊のきつい方が動かれなくなったこともあり、以前より開放する時間は増えている。安全に細心の注意を払い、今後も開放を継続していきたい。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	服薬についても、ささいなミスがあるため、職員全員が入居者の病歴・服薬を調べ把握し、服薬の際には声だし確認・飲み込み確認を徹底するなど事故防止への取り組みをしている。転倒事故も一人の方については件数が多く、苦慮しているが、かわりを強化することで対応している。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	6月20・21日に外部研修を受講したので、苑内で7月に伝達講習をし、応急手当や初期対応の訓練を実施する予定である。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	○	<p>ご家族と一緒に話し合うことで利用者も家族と職員皆に守られているという安心感を持っていただけるようだ。ご家族の協力も大変重要である。今後もご家族とも話し合い対応していきたい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>食事は毎回チェックしている。水分量は利用者全員の一日の水分量を調査し全職員が把握しているので、食事時・ティタイム時等提供した飲み物はできるだけ飲水していただくよう支援している。むせや誤嚥性肺炎の恐れのある方についてはお茶ゼリーを常備し提供し、とろみ調整食品も利用している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、予防・対応を実施している。職員・入居者とも手洗い・うがいの徹底をし、手すりやトイレ内の塩素消毒等、最善の注意を払い予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は熱湯処理、または塩素消毒を毎晩実施している。食材は必要数のみを前日購入、生魚は当日購入している。冷凍食品も利用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターに花や観葉植物を植え、親しみやすい環境にしている。玄関や階段の壁面には入居者の作品や、布草履教室の作品を掲示し、季節の花があれば飾り、明るい雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所が中心にある為調理の音や匂いなどはいつも感じていただくことができる。皆さんが大好きな唱歌や懐メロをかけ楽しい雰囲気作り努めている。新年の書初め、七夕飾り、クリスマスツリー、季節の花など季節ごとの環境設定にも工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ADLの低下・認知症の進行により、気のあった利用者同士という関係性はなく、ほとんどが居室で休まれている。	○	以前ベランダ出入り口に椅子2脚・ミニテーブルを設置し手作り暖簾で間仕切りしていたが、ほとんどが車イスでの移動のため、利用される方はいない。避難訓練でベランダへ出るときはかえって邪魔になり、また消防署による点検時には片付けているのが現状。リビングでは職員のかかわりでゆっくり過ごしていただいている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>苑庭にベンチを置き、屋外でのレクリエーションやおやつ、畑作業など楽しみながら活動できている。ベランダ出入り口は開閉自由なので息抜きに出られたり、ベランダでゆったりと風にあたり、お隣の豪華な庭園を鑑賞をされたりしている。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の進行とそれぞれの持病の悪化により、身体介護・食事介助などに時間を要するようになり、以前ほどレクリエーションができなくなってしまったが、平和苑が一番力を入れて取り組んでいるのは生活リハビリとレクリエーションである。ADL低下の防止と心のケアが目的である。全員でレクリエーションができない日には、個別対応でのレクやリハビリを実施している。入居者の体調がよければ、できるだけ屋外に出る機会を作っている。光にあたり、季節の風を感じ、四季の草花を愛で五感を刺激し体中を活性化することに努めている。食前には嚥下促進の為に健口体操や発語訓練・簡単な手指体操などを継続している。いつも歌声や笑いが絶えない楽しい雰囲気作りにも努めている。そうしたかわりの中で入居者の笑顔を引き出し、個性や能力を引き出し、生きる意欲へとつなげていくことを最重要視している。またそれらの取り組みの総まとめとして毎年家族会には入居者のお芝居を発表している。入居者の日頃の輝いた表情を見ていただくことが目的である。昨年は「白雪姫(和楽村バージョン)」のお芝居を皆で演じていただいた。芸達者で表情豊かに演じてくださる和楽の皆さんは、心底なりきって表現され、その熱演振りは、ご家族様も地域の方々も楽しみにされ、泉南市介護者の会からは新年会でのお芝居出演依頼があり、大きな舞台で地域の皆様にも見ていただいた。特に入退院でなかなかメンバーが勢ぞろいできない状況で、退院されたばかりの方も、「お芝居の練習があるから頑張らねば！」と意欲的に取り組まれ、驚異的な回復ぶりであったことには、職員も家族も驚いた。さらに、隔月には個別外出を企画し、外食や買い物、墓参りなど入居者の思いをじっくりと引き出し、できないとあきらめていたことができるという希望を持っていただけるよう支援している。写真入でご家族様に報告書を送り、管理者も必ず近況の身体状況を添えている。さらに平和苑だより(写真入)を毎月発行し、行事や生活の様子・表情を報告させていただいている。(運営推進会議でも公表している)